歴史講座

発掘された西三河の城 2

岡崎城跡　　復元された金箔瓦

令和 2年 2月 29日（土）

会場：愛知県青年の家

資　料

ごあいさつ

このたび、愛知県埋蔵文化財センターと岡崎市教育委員会では、令和２年２月29日に愛知県青年の家を会場として、歴史講座を開催することとなりました。

西三河地方では、室町時代から江戸時代にかけて、山城から平城まで多くの城が築かれます。今回の講座では歴史講座「発掘された西三河の城２」というタイトルで、西三河に所在する城のうち、発掘調査が実施された岡崎市と豊田市、安城市の５遺跡についてご報告いたします。また同時に、遺跡から出土した戦国時代の土器などの展示もおこないます。

今後、これらの遺跡の調査成果が多くの方々に知られ、さらには埋蔵文化財保護に寄与する事を願っております。

最後になりましたが、今回のイベントを開催するにあたり、各方面の方々にご高配を賜るとともに、関係者および関係機関のご理解とご協力をいただきました。厚くお礼申し上げる次第です。

令和２年　２月　29日

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
岡崎市教育委員会

プログラムと目次

司会　　池本正明（愛知県埋蔵文化財センター）

1：00 ～ 1：05　開会挨拶　　岡崎市教育委員会事務局社会教育課長　　中村　耕

1. 1：05 ～ 1：25　能見城跡（豊田市榊野町）　蔭山誠一（愛知県埋蔵文化財センター）…… 2

2. 1：25 ～ 1：45　東端城跡（安城市東端町）　宮腰健司（愛知県埋蔵文化財センター）…… 4

3. 1：45 ～ 2：05　御船城跡（豊田市御船町）　武部真木（愛知県埋蔵文化財センター）…… 6

4. 2：05 ～ 2：25　大平本城跡（豊田市大平町）　池本正明（愛知県埋蔵文化財センター）…… 8

休　憩　2：25 ～ 2：40

5. 2：40 ～ 3：00　戦国時代のかわらけ　　鈴木正貴（愛知県埋蔵文化財センター）…… 10

6. 3：00 ～ 3：20　岡崎城跡（岡崎市康生町）　山口遥介（岡崎市教育委員会）…… 12

3：20 ～ 3：25　閉会挨拶　　愛知県埋蔵文化財センター長　　高橋寿人

のうみじょうあと
能見城跡

愛知県豊田市榊野町

調査面積　2000 ㎡　　調査期間　1998 年 5 月～9 月

愛知県埋蔵文化財センター　蔭山誠一

能見城跡は豊田市榊野町 (旧東加茂郡旭町大字榊野) にある戦国時代の山城です。発掘調査は県道土岐足助線建設に伴う事前調査で、1998(平成 10) 年に実施しました。北東方向に突き出した標高 330m の尾根の突端に位置します。尾根の東で谷をきざむ阿摺(あづら)川の川面より 50m ほど高い場所にあり、眼下に美濃街道を見下ろすことができます。能見城跡は 15 世紀初頭から末頃に営まれていた城跡で、南北 83m、東西 32m の広さをもちます。発掘調査により検出された遺構として、ゆるく傾いて広がる 3 つの平坦面が確認できました。これらのうち、急勾配の斜面で周りを囲まれたもっとも高いところにある平坦面 1 では、土塁や階段状の遺構が検出されました。出土遺物では 15 世紀後半から末頃の古瀬戸陶器の縁釉小皿、擂鉢、土師器の皿・鍋・釜などの調理具、供膳具が出土しています。城跡の立地から阿摺川をはさんで小渡・美濃方面を意識した美濃街道筋の城跡と推定されます。

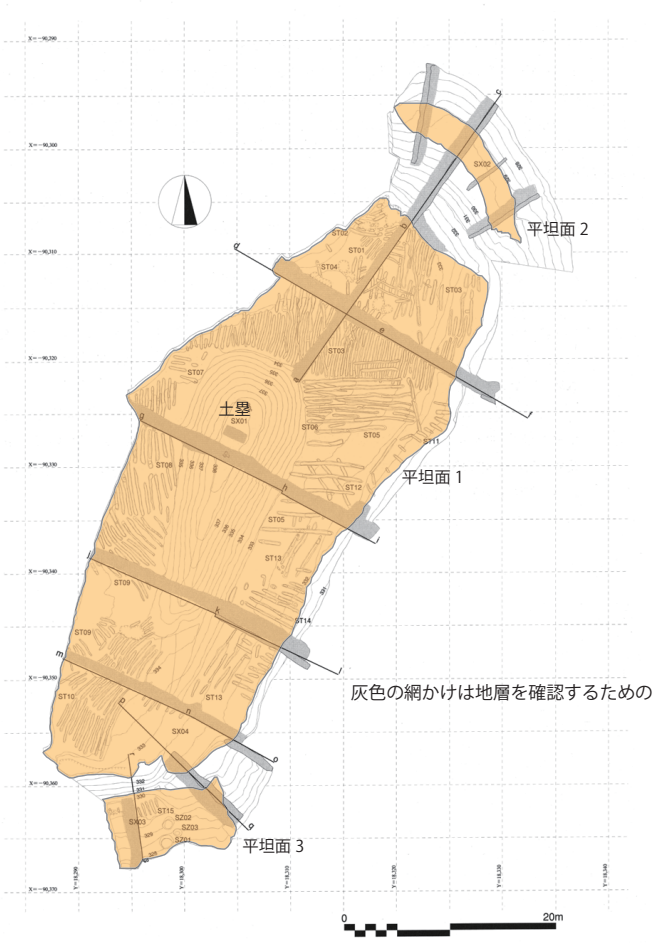
◀　遺跡の遠景

矢印が調査区。
南から臨む。南北にのびる道が美濃街道。
東から西へ阿摺川が流れている。

天目茶碗

擂鉢

出土した瀬戸･美濃産の陶器類



遺構全体図

調査区の全景（南より）

遺構SX01（北東より）

平坦面2 SX02の造成の様子（南東より）

階段状遺構SX04（東より）

ひがしばたじょうあと

東端城跡

愛知県安城市東端町中縄手

調査面積　800 ㎡

調査期間　2001 年 10 月～11 月

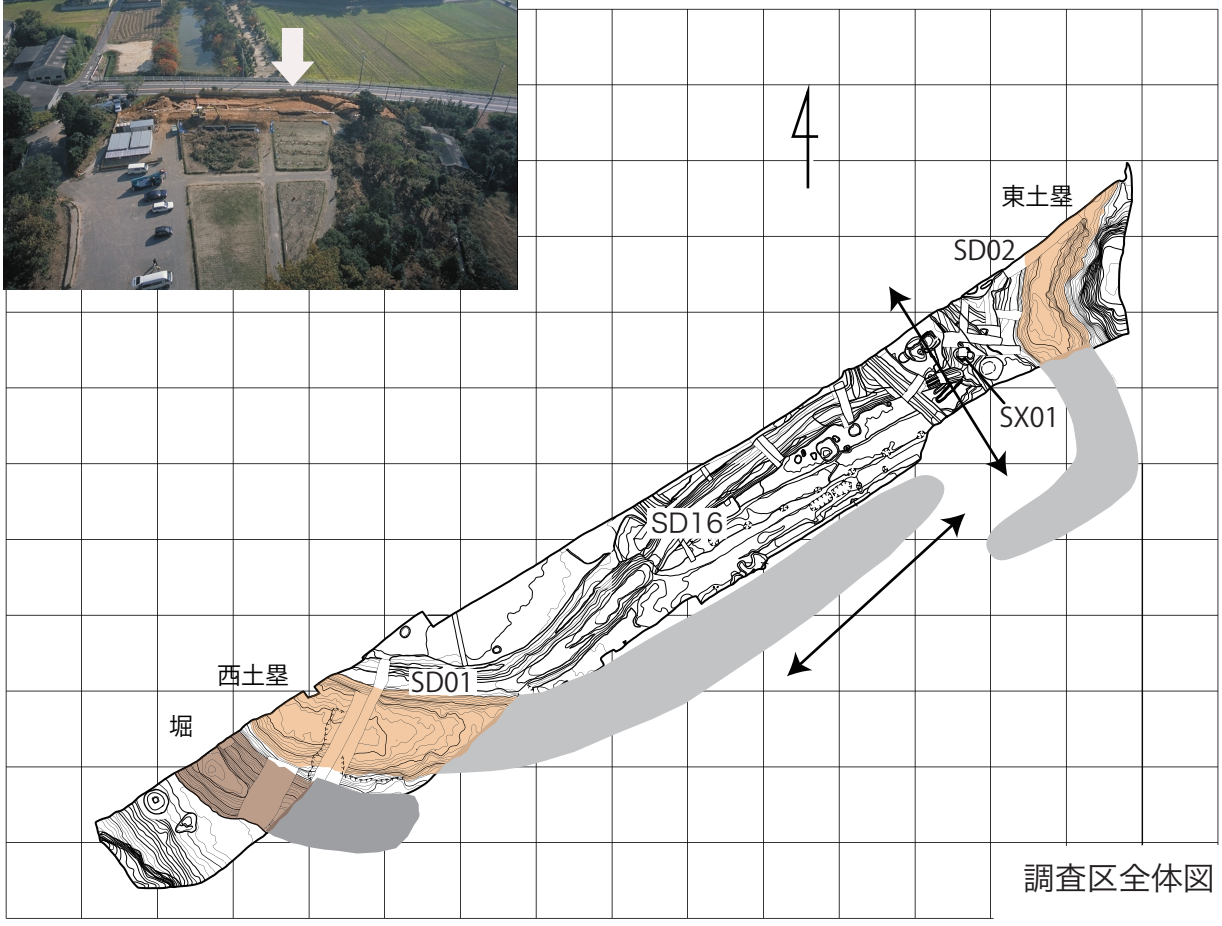
愛知県埋蔵文化財センター　宮腰健司

東端城跡は安城市東端町にある戦国時代の城館です。発掘調査は緊急地方整備事業自転車歩行者道路設置工事に伴う事前調査で、2001(平成 13) 年に実施しました。安城市と碧南市との境には油ケ淵(あぶらがふち)がありますが、その北西にある碧海台地の南西端、標高 7～8m の台地の上に東端城跡は立地します。東端城は 1580(天正 8) 年、大浜羽城 (碧南市) の長田重元(おさだしげもと)が息子の尚勝に築かせたとされています。その後、長久手の戦い (1584(天正 12) 年) で活躍した弟の永井伝八郎直勝に与えられ、1616(元和 2) 年に幕府の命令で常陸国笠間(かさま)城に領地を替えられるまで営まれていたとされます。発掘調査では遺構に伴う遺物が出土しなかったため城の構築時期はわからないものの、調査区の東と西にはそれぞれ土塁が検出されました。さらに西の土塁の外側 (西方) には幅約 4.3m、深さ約 1.4m の堀が確認されています。

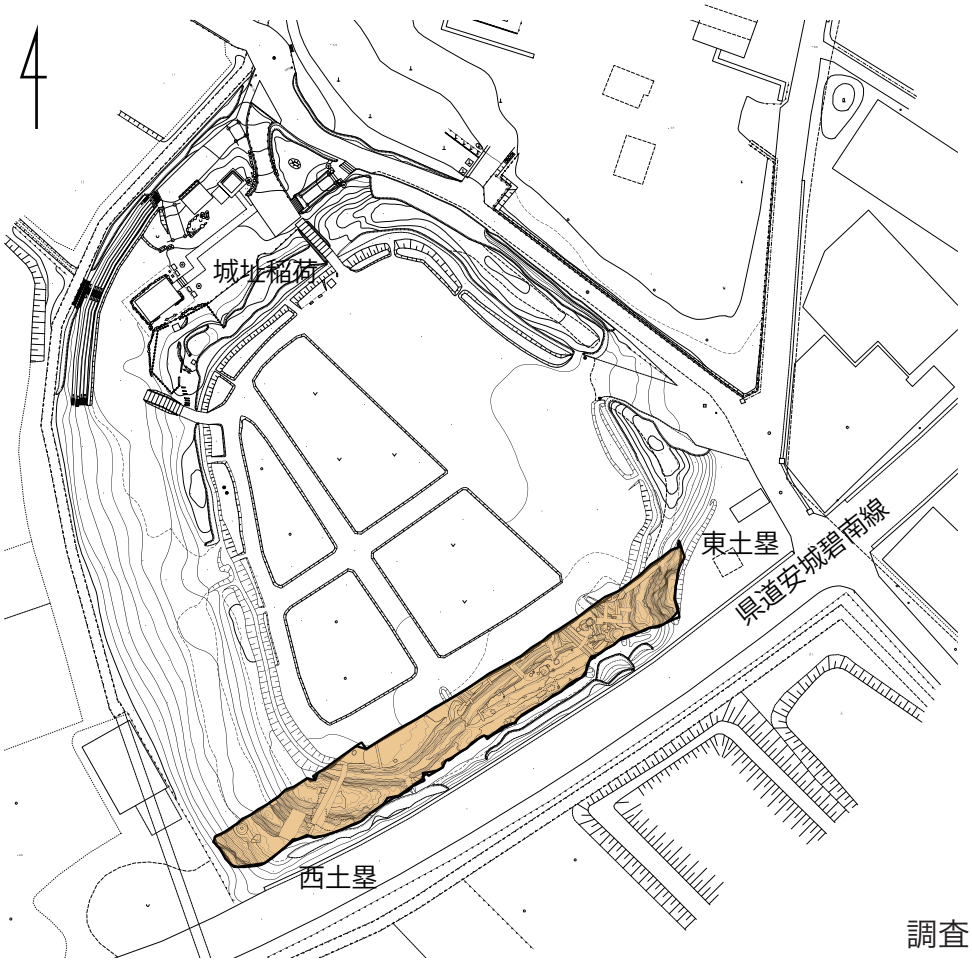
◀　遺跡の遠景

矢印が調査区。

北から臨む。南には油ヶ淵がひろがります。



調査区全体図



調査区位置図

調査区の全景

西土塁

堀（SD23）

東土塁

みふねじょうあと

御船城跡

愛知県豊田市御船町字島田

調査面積　3,570 ㎡

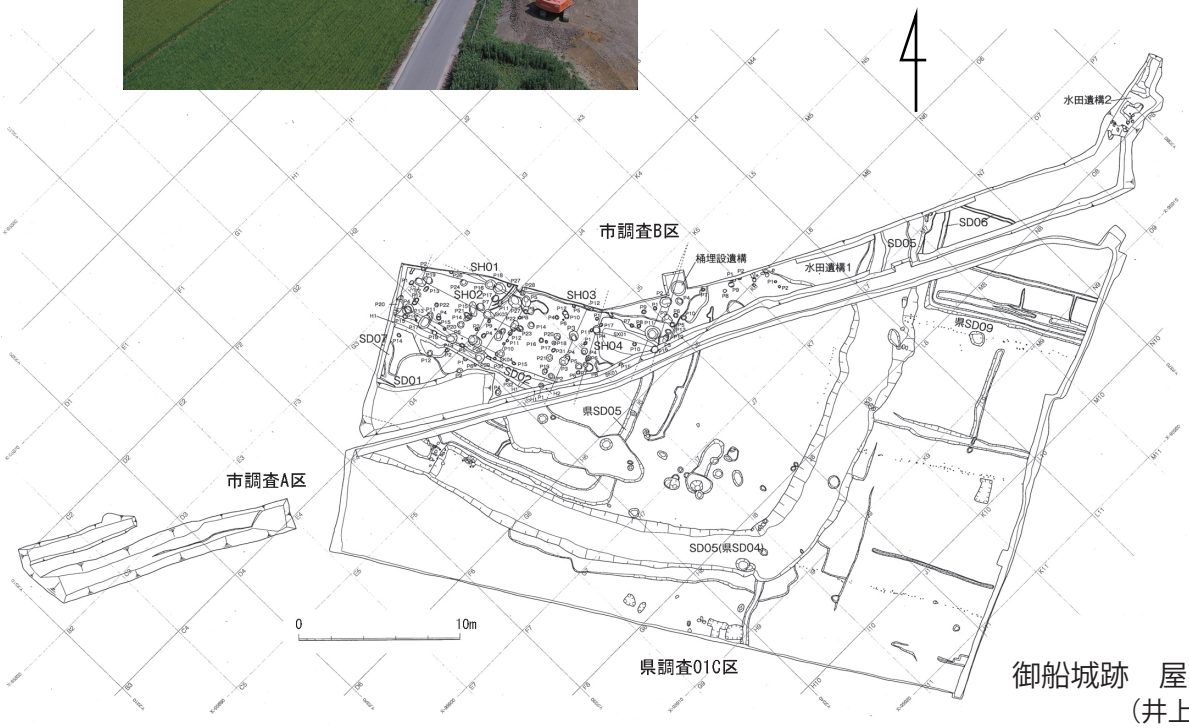
調査期間　2001 年 4 月～8 月

愛知県埋蔵文化財センター　武部真木

御船城跡は豊田市御船町にある戦国時代の城館です。発掘調査は東海環状自動車道建設に伴う事前調査で、2001(平成 13) 年に実施しました。また 2011（平成 23）年には市道拡幅工事に伴い、豊田市教育委員会により隣接地点の調査も行われました。調査地は、豊田市水源町にある矢作川の峡谷よりも上流の豊田盆地にあり、盆地の中を北西から南東へ流れる御船川の右岸、標高約 75m に立地しています。御船城は、現在の豊田市北部地域一帯を領有していた国衆あるいは国人領主といわれる地付の武士であった三宅氏一族の館と考えられ、応仁の乱ののち 1470 年以降に城館がおかれ、永禄 7 年（1564）に焼失するまで存続していたとされています。発掘調査で検出された遺構として L 字形に曲がる幅 3.5～3.7m、深さ 40～60cm の溝が確認されました。また、土師質の鍋釜類や、戦国期から近世の陶磁器類が出土しています。L 字の溝は、城館があったとされる旧地割の方向とほぼ一致します。この溝が屋敷地に関わる区画溝の一部であったと思われます。

◀　遺跡遠景

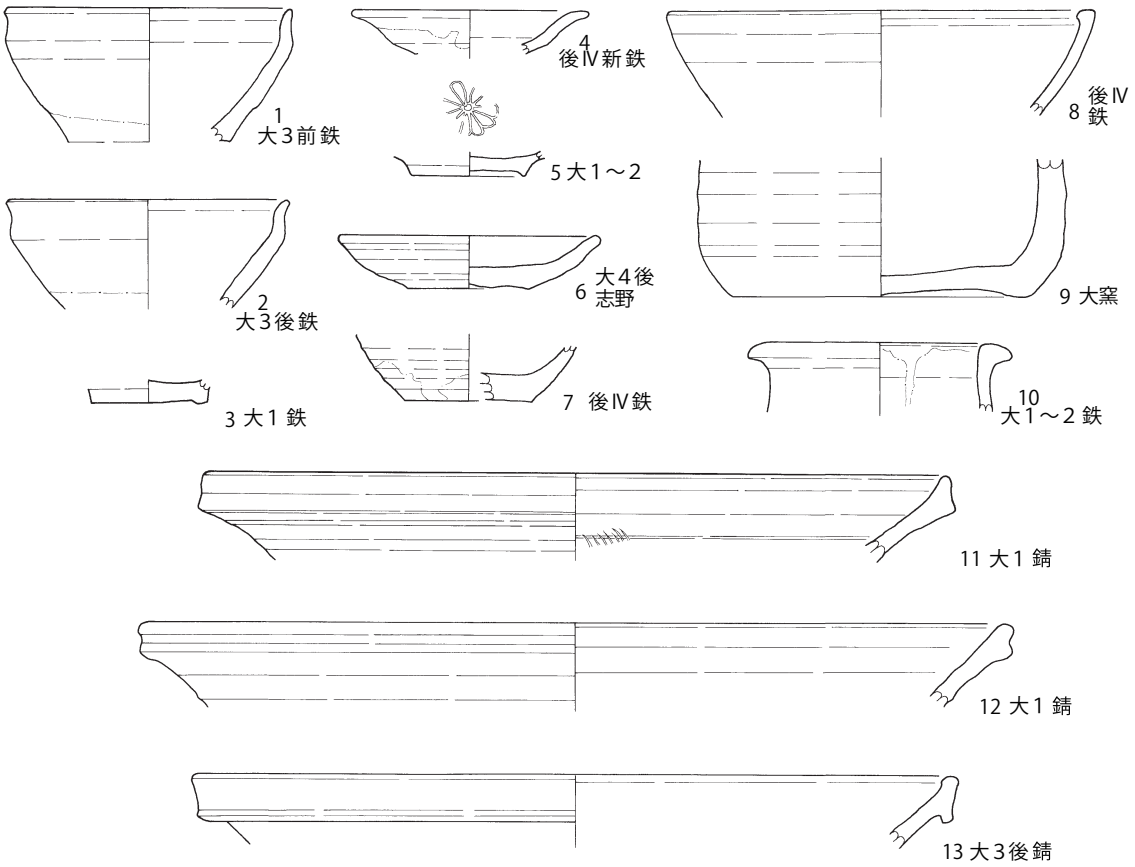
矢印が区画溝（SD04）が確認された調査区（01C 区）。
現在は東海環状自動車道が通ります。



御船城跡　屋敷地区画溝付近
（井上 ,2013 図に加筆）

井上直己（編）,2013,『御船城跡』, 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第 54 集

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 113 集「東端城跡　御船城跡　矢並下本城跡」(2002)



01C 区遺構 SD04 から出土した遺物

01C 区の作業風景

01C 区遺構 SD04

01C 区遺構 SD04 の東西断面

01C 区遺構 SD04 の南西辺完掘

おおだいらほんじょうあと

大平本城跡

愛知県豊田市大平町下屋敷

調査面積　310 ㎡

調査期間　2011 年 10 月～11 月

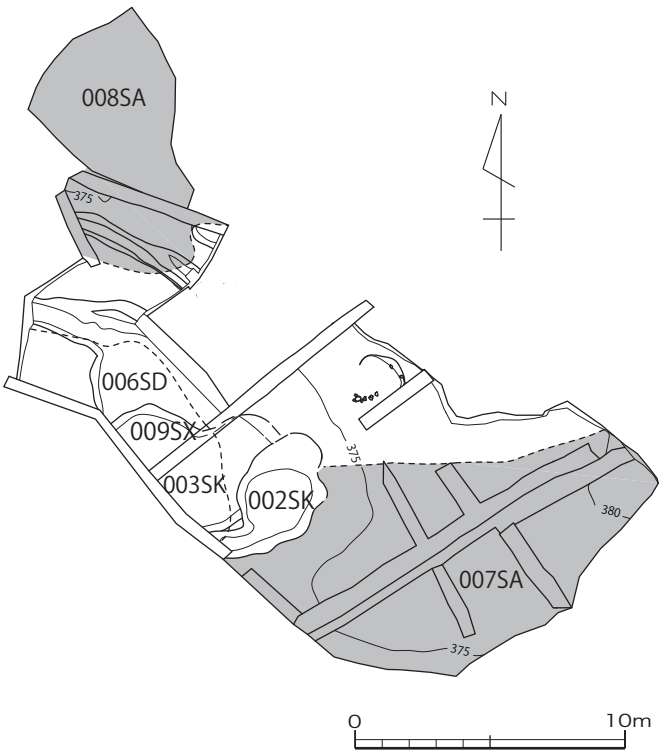
愛知県埋蔵文化財センター　池本正明

大平本城跡は豊田市大平町に所在します。発掘調査は急傾斜地崩壊対策事業に伴うもので、2011（平成 23）年に実施しました。今回の調査区は大平本城跡の南西側の斜面で、標高は 375m。小規模な二段の平坦面とその間の斜面となります。

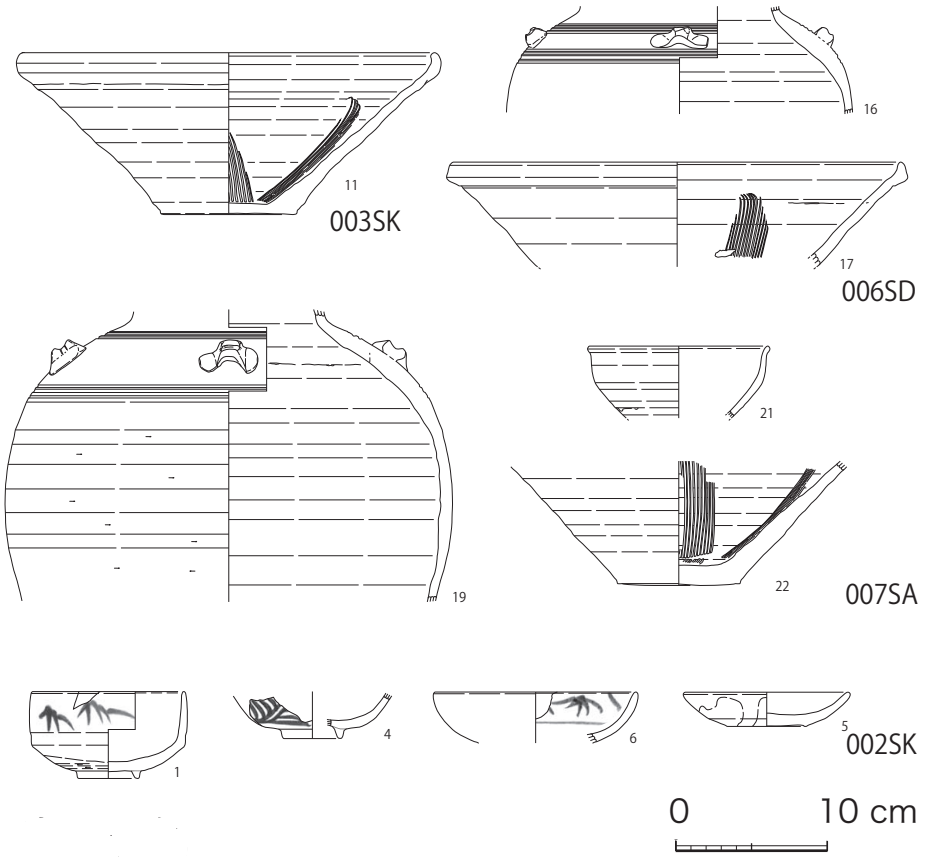
調査の結果、下段の平坦面は南側が造成（009SX）により拡張され、東西に土塁（007SA・008SA）も検出されました。平坦面の前面と背面は急峻な斜面となり、この平坦面が大平本城跡の南側の曲輪の一つであったと考えられます。出土遺物は 15 世紀後半～16 世紀前半と 18 世紀に区分できます。大平本城跡の継続時期は不明ですが、時期的な断絶もあり、後者は廃城後の再利用に伴うものかもしれません。

◀　遺跡の遠景

矢印が調査区。
南から臨む。調査区下の道路は県道 19 号線。



主要な遺構



出土した遺物

調査区の全景（南から）

007SA

008SA

006SD 出土遺物

● 戦国時代のかわらけ（土師器皿）

愛知県埋蔵文化財センター　鈴木 正貴

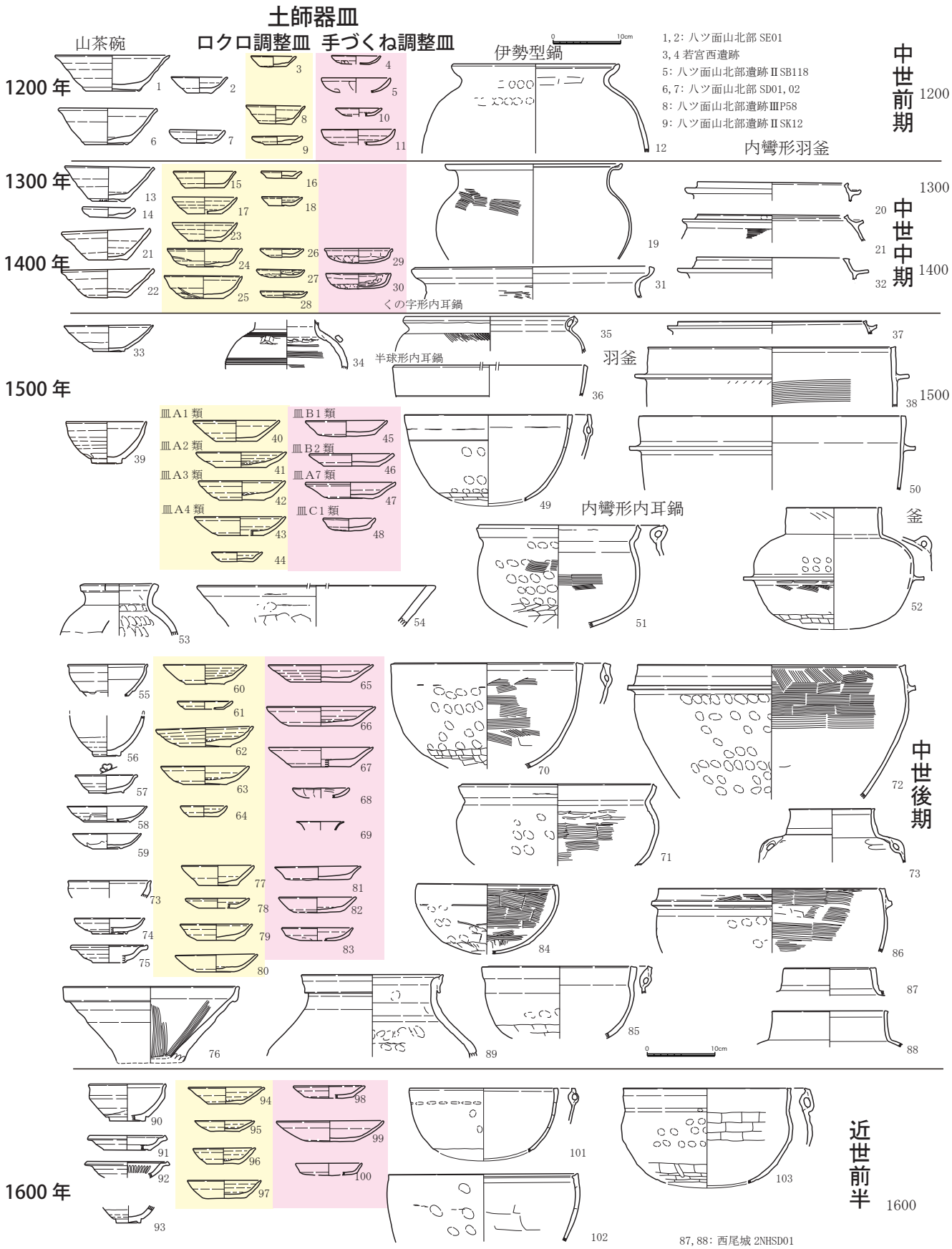
愛知県下の土師器皿は古代末期から登場します。古代（11世紀頃）まで食器は灰釉陶器が中心で、土師器皿はわずかしかなく、底部に回転糸切り痕を残すロクロ調整の製品ばかりでした。

中世（12世紀後葉頃）になると、底部に回転糸切り痕を残さない手づくね調整土師器皿が出現するようになりますが、その割合が地域で異なります。尾張では手づくね調整が主体、西三河ではロクロ調整が主体、東三河では両者が半々くらいでした。これが15世紀中頃には、なぜか東三河では手づくね調整が主体、西三河ではロクロ調整が主体、尾張では両者が半々に変わります。

一方、土師器皿は出土量が場所により偏る傾向が確認されています。中世前半から拠点的な遺跡や屋敷で多く出土し、戦国時代では拠点的な城跡や居館で大量出土する事例が散見されます。一般に土師器皿（特に手づくね調整）は京都の影響を受けたものと考えられており、この地方では主従関係などを確認するための儀礼に用いられた可能性が指摘されています。

破片数	城名	遺構	瀬戸美濃窯産陶器	中国産陶磁器	常滑窯産陶器	土師器皿	土師器鍋類	その他	割合
豊田市	城山城跡	01A平場1	55	2	0	125	114	0	42
豊田市	城山城跡	01A平場2	98	4	2	108	125	0	32
豊田市	城山城跡	01A平場3	129	1	0	135	130	0	34
豊田市	城山城跡	01A平場4	17	0	0	15	21	0	28
豊田市	城山城跡	01B平場1,2	0	0	0	0	0	0	0
豊田市	城山城跡	01B平場3	4	0	0	0	3	0	0
豊田市	城山城跡	01B平場4	22	0	0	12	26	0	20
豊田市	城山城跡	01BSX03	33	1	0	47	86	0	28
豊田市	矢並下本城跡	全体	50	0	0	111	48	9	53
豊田市	能見城跡	全体	86	0	27	752	6	61	86
安城市	東端城跡	SD16	20	1	10	1	845	0	0.1
安城市	東端城跡	SX01	10	0	1	2	521	12	0.4
安城市	木戸城遺跡	全体	125	9	325	40	104	0	6.6
西尾市	鳥羽城跡	戦国期全体	1	0	0	0	0	0	0
西尾市	西尾城跡	6NNSD02	66	0	59	477	980	21	30
西尾市	西尾城跡	6NNSK01	8	1	8	81	189	3	28
西尾市	西尾城跡	6NNSK10	2	0	0	5631	0	0	100

西三河の主な城館跡における土師器皿の出土割合



1, 2：八ツ面山北部 SE01
3, 4 若宮西遺跡
5：八ツ面山北部遺跡ⅡSB118
6, 7：八ツ面山北部 SD01, 02
8：八ツ面山北部遺跡ⅢP58
9：八ツ面山北部遺跡ⅡSK12
10, 11：八ツ面山北部遺跡ⅢSB02
12：西尾城 59NHSK05
13, 14：八ツ面山北部 SK10
15, 16：和泉町遺跡 SD01
17, 18, 20：室遺跡 SD75
19：八ツ面山北部 SK10
21～23：室遺跡 SK39
24～30：室遺跡 SX101
31, 32：室遺跡 SX102
33, 36：西尾城 6NNASK03
35：室遺跡 SD58
37：西尾城 6NNASK27
38：西尾城 6NNASK19
39：室遺跡 SD10
34, 40, 44, 46～48, 49～52, 54：西尾城 6NNASD02
53：西尾城 6NNSD07
55, 57, 70, 73, 89：西尾城 2NHSD03
56, 58, 59, 69：西尾城 6NNASD06
60～68：西尾城 6NNASK10
71：西尾城 6NNASK16
72：西尾城 2NHSX06
74, 75, 77, 79～81：西尾城 6NNASD05
76, 78, 82, 83, 84～86：西尾城 6NNASD04
87, 88：西尾城 2NHSD01
90：西尾城 2NHSD01
91, 92：西尾城 2NHSD02
95, 97, 100：西尾城 6NNASK05
96：西尾城 6NNASK01
98：西尾城 6NNASD01
94, 99：西尾城 6NNASK03
93, 101, 103：西尾城 6NNASK01
102：西尾城 2NHSX02

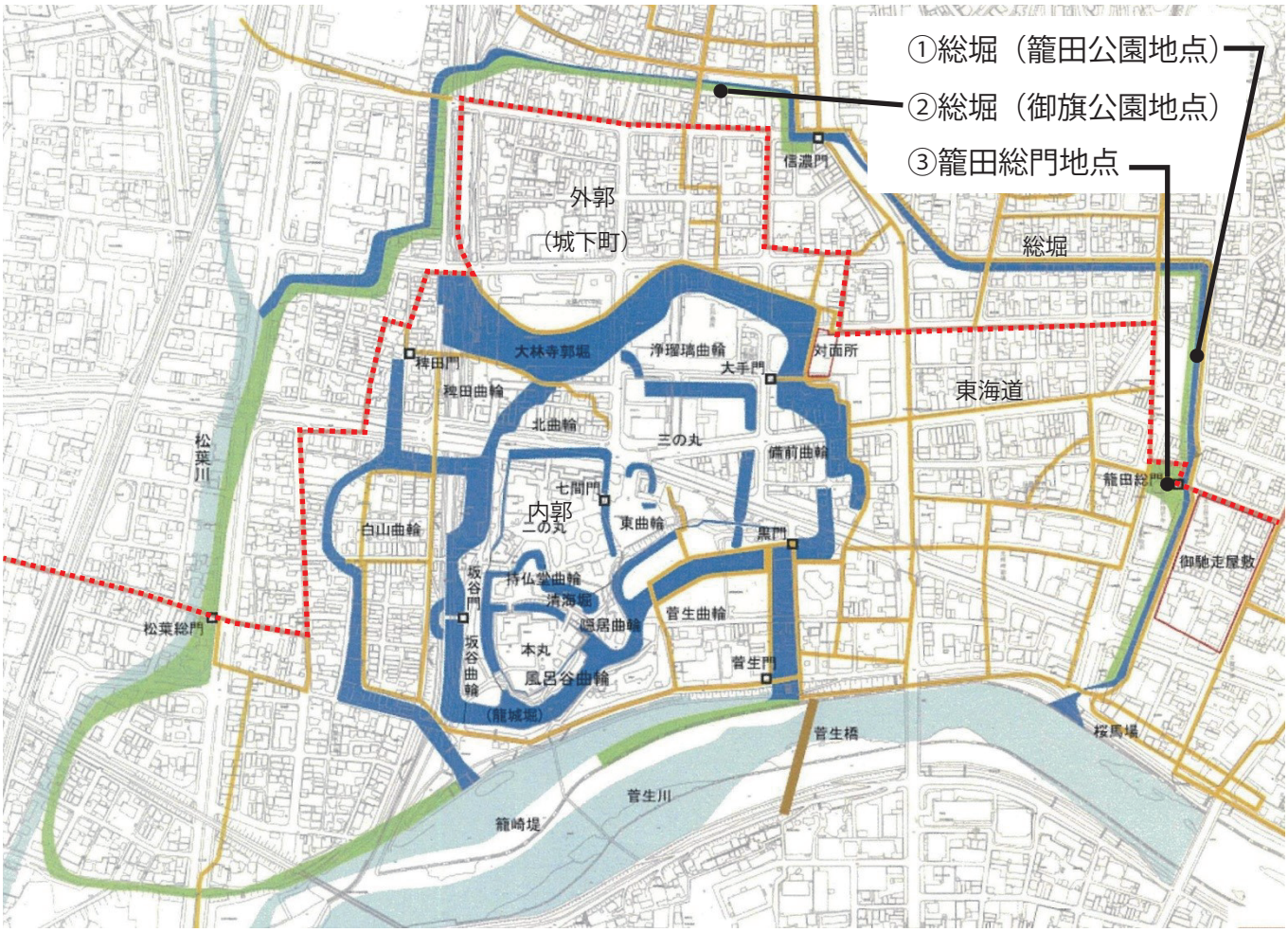
西尾市における中世の焼き物の変遷（『新編西尾市史資料編１考古』を改変）

おかざきじょうあと 岡崎城跡（そうぼり 総堀）

	調査面積	調査期間
①籠田公園地点（籠田町）	138 ㎡	2018 年 7 月～9 月
②御旗公園地点（材木町）	91 ㎡	2019 年 1 月
③籠田総門地点（康生通）	27 ㎡	2019 年 8 月～9 月

岡崎市教育委員会　山口遥介

「岡崎城跡整備基本計画 - 平成 28 年度改訂版 -」に基づき、岡崎城跡の遺構確認を目的とした発掘調査を継続的に実施しています。平成 30・31 年度は岡崎城総堀跡及び籠田総門跡で発掘調査を行い、総堀の土塁や堀法面などが確認されました。また、近代以降ではありますが、石垣や下水管などが総堀跡を利用してつくられていることなどがわかりました。

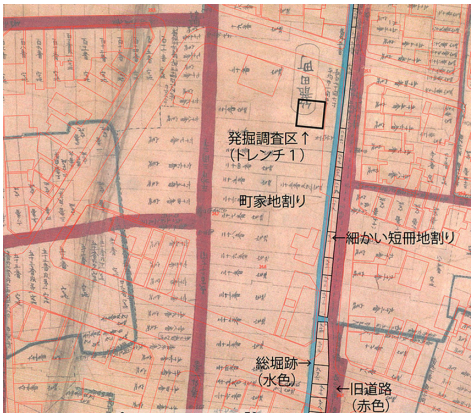


城郭重ね図

①籠田公園地点

総堀の東辺にあたります。明治 17 年の地籍図では水路敷きとして総堀の痕跡が残ります。近代になって総堀法面上部に石垣が新たに築かれています。

近代石垣の背後の落ち込み（堀法面）

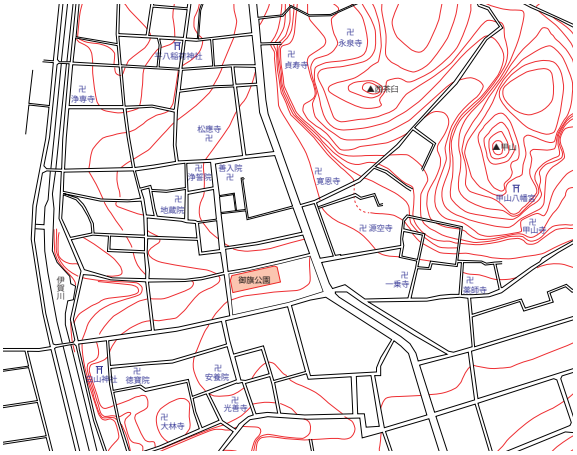


調査位置図（M17 地籍図に加筆）

②御旗公園地点

総堀の北辺にあたります。土塁及びそこから堀へ落ち込む法面のラインが確認されました。東方の丘陵部から延びる谷地形を利用して総堀が築かれていることがわかりました。

調査区断面

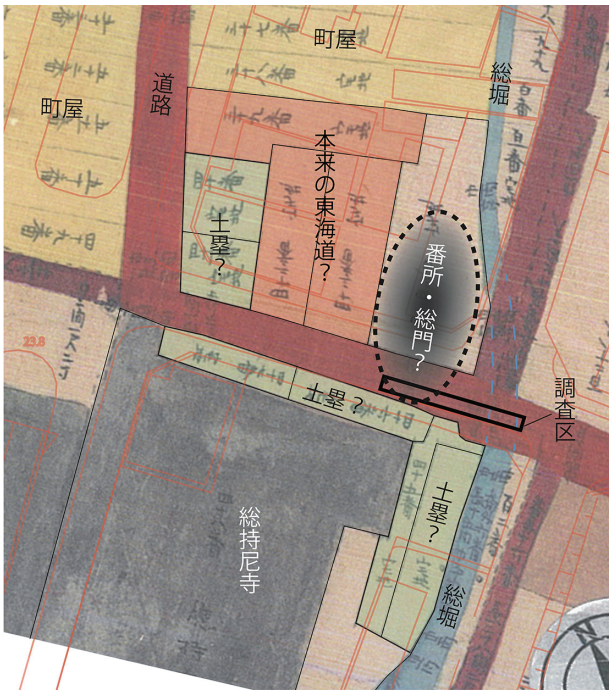


昭和初期の地形図

③籠田総門地点

総堀の出入口の一つ「籠田総門」の想定地です。近代以降の道路工事により総門の痕跡は失われていました。総門付近の総堀の痕跡として、堀の落ち込みが確認されました。籠田公園地点の調査同様、総堀は近代に石垣が築かれ、排水路として利用された状況が確認されました。

総堀の落ち込みと近代の石敷き



籠田総門想定位置図（M17 地籍図に加筆）

近代以降の総堀跡の利用

明治時代の旧地籍図からは総堀跡が水路（自然排水路）として利用されていたことがわかります。また、大正末から昭和初期に行われた下水道事業の際には総堀跡に下水管を敷設して埋めた箇所も少なくなかったようです。その後、戦災復興による土地区画整理により一帯は市街化され、現在では旧来の地割や地表面に総堀の痕跡を留める地点はほとんどありません。しかし、発掘調査により断片的にでも総堀跡が確認されつつあります。

遺跡の位置

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　弥富市前ケ須町野方 802－24
電話　0567-67-4163
URL　http://www.maibun.com/top/

＊今回の発表のほか、当センターが行なってきた遺跡の調査報告書などがご覧いただけます。
報告書掲載写真のデータベース「遺跡アルバム」もご覧ください。

岡崎市教育委員会 社会教育課　岡崎城跡係
〒444-8601　岡崎市十王町 2 丁目 9 番地
電話　0564-23-7270
URL　http://www.city.okazaki.lg.jp/1300/1304/1332/index.html

＊今回の発表のほか、平成 26 年度から続く岡崎城の発掘調査情報は、上記のページよりご覧いただけます。どうぞご活用ください。